

令和8年
2026年

5月22日
金曜日

第11954号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)
6か月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
☎101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
☎550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
☎812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



京都食肉買参事業協同組合は、第57回通常総会を開催した……P7

注目のヘッドライン

食肉加工メーカートップインタビュー 信州ハム 下平匡克代表取締役社長

—製品構成を再構築、抜本的な構造改革必要

…詳細はP2

稼げる輸出に向けた第8次提言骨子案を 示し議論

—自民党・農産物輸出促進対策委員会

…詳細はP3

- ▶ 食肉加工メーカートップインタビュー
信州ハム 下平匡克代表取締役社長 …… P2
- ▶ 稼げる輸出に向けた第8次提言骨子案を示し議論
—自民党・農産物輸出促進対策委員会 …… P3
- ▶ [鶏肉輸入予測数量] 6月は計5万5730 tで8・1%増 …… P3
- ▶ TOKYO X-Association総会、新会長に遠藤剛氏を選任 …… P4
- ▶ 東京都食肉2組合総会、関谷理事長「世界情勢を注視し、事業を推進」 …… P5
- ▶ 長野県食肉3団体が通常総会を開催、消費拡大に向けた事業を推進 …… P5
- ▶ 米国で鳥フル、家禽肉など輸入一時停止 …… P5
- ▶ 5月の食品価格動向調査、輸入牛は前月比4円安、国産牛は17円高 …… P6
- ▶ 日本冷凍食品協会が通常総会、藤江会長ら再任、出荷量・額とも増加 …… P6~7
- ▶ 京都食肉買参事業協同組合が総会を開催、大西理事長を再選出 …… P7
- ▶ [関東の輸入豚肉現物相場] Cは全体的に上昇、F底堅い …… P8
- ▶ [関東の国産豚肉現物相場] C、Fともにスソ物中心の荷動き …… P8
- ▶ [肉類通関速報・4月] 計29万7777 tで前年比9・1%増 …… P8
- ▶ [輸入牛現物相場] チルドの引き合い鈍化、相場の一定下落もあるか …… P9
- ▶ [プロイラー市中現物相場] 輸入物、ブラジル産正肉がやや軟調 …… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 21日 …… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 21日 …… P11

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12
営業一課 / ☎(03) 3919-2929 FAX(03) 3919-2930
総務 / ☎(03) 3919-2980 FAX(03) 3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

食肉加工メーカー トップインタビュー 信州ハム 下平匡克代表取締役社長

製品構成を再構築、抜本的な構造改革必要

—2025年度の現時点での経営状況をお聞かせください。

当社の決算は6月ですが、期の前半は、滑り出しが良かったです。原材料価格が一時的に落ち着きを見せていたこともあり、昨年度を上回るペースで推移。11月にはスペインでのASF発生という懸念材料もありましたが、12月まで前年比プラスを維持できました。

しかし、1月に入り原材料価格が再び上昇。特に3月から現在にかけては、今期中で最も厳しい局面を迎えています。現時点では在庫に大きな問題はないものの、コスト高が長期化すれば、夏以降には在庫バランスが崩れ、経営を圧迫する恐れがあります。

消費者動向は、昨年度に比べ微減傾向にあります。3月末の見込みでは約1・8%の減少となる見通しで、これまで、売上げを維持していた当社の主力商品「グリーンマーク」シリーズも、ここ1年に限っては、その影響を多少なりとも受けているのが実情です。

業界全体のシュリンクのスピードと比較すれば減少幅は最小限に抑えられているものの、改めて戦略を練り直す必要があると感じています。

—今後の事業方針について。

3~4月にかけて、発売45周年を迎える「軽井沢シリーズ」の記念キャンペーンを展開しています。

限定のアソートセットの投入など、長年ご愛顧いただいているお客さまへ感謝を伝えるとともに、ブランドの価値を改めて発信していきます。7月からは第80期という大きな節目を迎えるため、販促面でも例年以上に力を入れていきます。

一方で、外部環境は依然として厳しい状況が続いており、抜本的な構造改革が必要です。安定して確保できる良質な材料から何が創り出せるか。材料を起点とした開発体制へとシフトし、製品構成を再構築していきたいと考えています。製品戦略においても、当社の強みである「ベーコン」以外のカテゴリー強化も行いながら、環境変化に左右されない組織を構築していきます。

—今後の新製品開発の方向性について。

これまでは、製造部門出身者が培ってきた「製造の理論」が開発の主軸となっていました。しかし今後は、外部のトレンドや消費者の動向をよりの確に捉



えたマーケティング視点も重要になってきます。そのため、部署編成の見直しも視野に入れ、「売るための開発」に一層シフトしていきたいです。

—販売面で、新たに取り組んでいることは。

データに基づいたマーケティングの強化に注力しています。

具体的には「優良顧客」(コンシューマー)の方々を対象にアンケートを実施し、最終消費者が信州ハムの製品に何を求めているのかを分析することで、市場価値を高めていきます。

また、これまでの消費者キャンペーンは、はがきでの応募が主体でしたが、現在はLINEも活用。この他、無料動画配信サービス内での広告配信など、新しい試みにも着手しています。

当社のファン層は長年支えてくださっているシニア世代の方々を中心です。一方で、若年層へのアプローチは常に意識し続けなければなりません。

—価格改定の影響と再改定についての考えをおきかせください。

今年4月にも価格改定を実施いたしましたが、原材料費のみならず、人件費も上昇しており、今後もコンスタントな適正価格への見直しは不可欠です。

もちろん、需給バランスが大きく崩れる際には、^{しんし}真摯にお客さまへお願いをしていくしかありません。

しかし、一方的な値上げを続ければ、選択肢から外されてしまいます。限られたパイの中で、いかに信州ハムを選んでいただけるか。価格に見合う商品の提案をしていくことが不可欠です。

稼げる輸出に向けた第8次提言骨子案を示し議論 —自民党・農産物輸出促進対策委員会

自民党は21日、農産物輸出促進対策委員会を開催し、農林水産物・食品の輸出拡大に向けた議論を行った。会議では、事業者ヒアリングとしてGFP(農林水産物・食品輸出プロジェクト)の機能強化、ハラールを含む輸出先の多角化などについて事業者からのヒアリングをした後、稼げる輸出に向けた第8次提言骨子案について説明した。

冒頭、上月良祐農産物輸出促進対策委員長は「手探りで始めた輸出の対策であったが、課題が明らかになってきた。今後は、課題に適切に対応していかななくてはいけない第2期に入っている。これまで積み上げた取り組みを土台にしなが、次なる課題に対応することで大きく輸出を伸ばしていく第2フェーズである。GFPの取り組み、さらにはハラール市場をどう獲得していくかの知恵を拝借したい」と述べた。

続いて、農水省がGFPの現状と課題について説明。GFPは、農水省の委託事業として、新たに輸出に取り組む事業者のサポートを目的として2018年に立ち上げた。登録者数は1万1千人に到達する一方、現地商流開拓や供給力強化へのシフトが求められている。特に、有望な巨大市場であるハラール市場への対応が不可欠だ。市場獲得に向けて、HACCPハード事業な



どを活用した畜水産物や加工食品のハラール対応施設整備の推進、輸出支援プラットフォームにおけるハラール専門家の育成・確保による情報収集・提供機能の強化、インバウンド需要も踏まえた、商品の表示の多言語化、認証取得等、ムスリムのニーズを踏まえた商品の開発を行っていく必要があるとした。

会議で示された「稼げる輸出」に向けた第8次提言(骨子案)では、①海外支援体制の強化②輸出先の多角化③輸出産地・輸出事業者の育成④輸出品の高付加価値化⑤輸出をけん引する外食などの食産業のグローバル展開⑥知的財産の保護⑦各国・地域の規制の撤廃、緩和に向けた協議の加速—を行うための十分な予算確保を求めた。

【鶏肉輸入予測数量】6月は計5万5730 tで8・1%増

日本食肉輸出入協会は20日、鶏肉輸入動向検討委員会を東京都内で開催し、4～6月の鶏肉輸入数量を予測した。それによると、4月は計5万1605t(前年同月比8・2%増)で、ブラジルが3万6500t(20・3%増)、タイが1万4400t(14・2%減)、米国が650t(26・5%増)、その他の国が55t(30・4%減)

5月は計5万4510t(12・3%増)で、ブラジルが4万t(18・8%増)、タイが1万3800t(1・1%減)、米国が660t(24・8%減)、その他の国が50t(16・3%増)。6月は計5万5730t(8・1%増)で、ブラジルが4万1100t(19・3%増)、タイが1万4千t(15・8%減)、米国が580t(22・4%増)、その他の国が50t(約16・7倍増)と予想している。

鶏肉の輸入状況については、生産国における現地価格の高値に加えて、円安の影響もあり、輸入価格が高騰している状況が続いているが、国内の強い鶏肉需要に支えられ、おおむね堅調に推移してきている。

タイにおいては、猛暑による生産の遅れが発生しているようである。中東情勢の影響については、原油の供給不足による現地での包材調達の停滞、海上輸送コストの増大などによる輸入鶏肉の安定確保などへの懸念が生じており、引き続きその動向を注視していく必要がある。その他にも、ブラジルやタイにおけるワーカー不足やHPAI(高病原性鳥インフルエンザ)の発生などの動向についても注視していくといっている。

TOKYO X-Association 総会、新会長に遠藤剛氏を選任

TOKYO X-Association(中村敏章会長＝上写真)は20日、第27回令和8年総会を東京都八王子市の京王プラザホテル八王子で開催。令和7年度事業報告、8年事業計画(案)など、上程全議案を原案通り承認した。また、役員選任では、中村会長が退任し、新会長に遠藤剛氏(株)遠藤商店、下写真)を選任。その他、新任の理事として八重澤岳氏(株)人形町今半)を選任した。

総会では、初めに中村会長が「“Association”とは、集まった人がそれぞれ同じ目的を持ち、計画的に行動する団体のこと。世の中はあらゆるものが節約志向となっているが、われわれの目的はお客さまに喜んでいただくためのTOKYO Xの価値向上だ。おいしいとっていただける品質安定と顧客拡大、メディアを活用してTOKYO Xの露出度を上げ、一度で良いから食べてみたいという潜在的なお客さまを増やし、その人たちに取扱店舗を案内して購入につなげていく。また、生産者組合と情報を密に交換し、互いの課題を解決しながら、常に店頭で陳列可能な頭数を育てていただくため、われわれができることを議論し、お客さま、生産者、そして社会の三方が喜ぶ環境を構築していく」と述べた。来賓からは東京都議会の伊藤大輔議員(都民ファーストの会)、東京都産業労働局農林水産部農業振興課の小山充畜産振興担当統括課長代理がそれぞれ祝辞を述べた。

7年度は、恒例の東京都主催「食育フェア」などのイベントに参加した他、リブランディング事業の一環として、JA全農東京で開催された講演会に参加。静岡県立大学経営情報学部経営情報学科の岩崎邦彦教授による「ブランド力と価値創造～TOKYO Xのブランド価値をさらに高めるために～」と題した講演が行われた。また、初開催となる「第1回とんかつベス豚グランプリ」に出場。審査員特別賞を受賞した。

8年度も引き続きTOKYO Xのブランド価値のさらなる向上および消費者認知の拡大、持続可能な流通体制の確立を目指す。①販促に関する事業では、販売店との連携を深め、より一般消費者につながりやすい販促を実施。また、SNSを活用した販促の継続・強化を図る他、イベントと連動した販促企画を実施する。

②生産者および関係各所との交流・連携では、定期的な情報共有の継続や生産者・流通・販売の交流機会の創出を図る。③知名度向上に向けたイベント事業では、東京都を中心とした地域活動への参加・協賛、販売店主催の広報イベントへの協賛活動にも注力。④ブランド強化活動では、時代の変化・市場ニーズを踏



まえたリブランディングを実施し、SNS・広報媒体による情報発信の充実を図る。その他、新規生産者確保に向けた取り組みにも積極的に参画する。

議案審議終了後には、遠藤新会長が登場。「今回、会長という重責を担うことになり、身の引き締まる思いだ」と述べ、自身の経歴やTOKYO Xに対する思いをスライドで説明。浅草で昭和4年から続く精肉店の3代目として、TOKYO Xの焼き豚の販売などを行っているが、家業を継ぐ前は若者向けファッション紙の編集者であったという異色の経歴を紹介。店舗でお客様の前に立ち続けてきた“現場”の経験と、編集者として”価値”を伝える技術を磨く、「現場×編集者」の視点からTOKYO Xをみると、「確実に価値はあるものの、それが価格へとつながっていない」と指摘。「おいしいね」で終わらせず、価値を高め、価格という形で現場に還元することの重要性を訴えた。そして突破するための三つの柱として、「理由を作る」「価値を伝える」「価格を守る」を挙げた。さらに畜産家は誇り高きアスリートであり、スター性のある畜産家を育てることが重要と説明。畜産家の物語こそTOKYO Xの核であるとした。最後にTOKYO Xを東京最強の武器にして、量だけを追わず、価値で選ばれるブランドにしていくために、“チーム”として取り組んでいくことを呼びかけた。

東京都食肉 2 組合総会、関谷理事長「世界情勢を注視し、事業を推進」

東京都食肉生活衛生同業組合および東京都食肉事業協同組合(関谷芳久理事長=写真)は20日、生衛組合第68回、事業組合第65回となる通常総会を東京都港区の大東京信用組合本店で開催。総会では両組合の7年度事業報告や8年度事業計画(案)など、上程全議案を承認した。

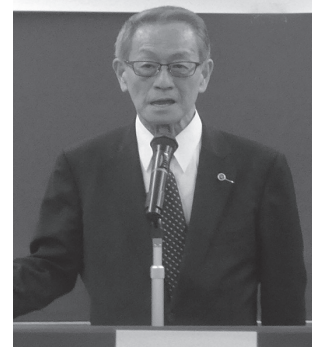
生衛組合では、今年度16年ぶりに関東甲信越食肉連絡協議会第63回通常総会の担当として「東京大会」が開催されることを周知した他、柱となる各種保険制度を推し進め、特に福祉共済制度は例年以上に加入促進キャンペーンに注力し、本人ならびに従業員の福利厚生を後押ししていく。

事業組合では、組合活動活性化事業において材料共同購入支援費のじゃがいも、玉ねぎと「ステーキの日」「トンカツの日」「すき焼きの日」などのイベントに加

え新たに鶏の「ムネ肉・モモ肉」を組み込んだ他、イベントで消費者に提供する調味料も安価で供給する。

関谷理事長は「昨年を振り返ると、新規事業として『しゃぶしゃぶの日』を設けた他、資材共同製作事業として真空パック袋を安価で提供する事業も開始したところだが、昨今の中東情勢の影響を受け、在庫不足に陥り、中断している現状にある。今後は世界情勢を注視しながら、原料価格などを鑑み、安価で安定的な提供を再開できるよう進めていきたい」と呼びかけた。

事業協同組



長野県食肉 3 団体が通常総会を開催、消費拡大に向けた事業を推進

長野県食肉組合連合会(掛川一富理事長)、長野県食肉事業協同組合連合会(市瀬哲男会長)および長野県食肉生活衛生同業組合(関口豊理事長)の食肉3団体は20日、令和8年度長野県食肉3団体通常総会を長野市のホテルメトロポリタン長野で開催し、それぞれ上程議案を原案通り承認した。また組合事業ならびに食肉業界発展のため貢献した会員の功労者表彰が行われた。

総会の冒頭、3団体を代表して県肉連の市瀬会長は「食肉業界は国際情勢が不安定なことから、消費者の節約志向が一層強まるなど厳しい状況となっている。食肉の消費拡大に向けて、組合員が一丸となり事業を推進していく」とあいさつ。

続いて食肉組合連合会、県肉連、生衛組合の議案

審議が行われ、令和7年度事業報告および収支決算報告、令和8年度事業計画お

よび収支予算案などの上程全議案を承認した。

県肉連の事業報告では、会員組合の組織強化に努めるとともに、組合員へコンプライアンス周知徹底のための講習会開催計画の策定、消費者の信頼確保および食肉の需要増加のため、全肉連の助成事業を中心に食肉関連資材の共同購入、機材等施設整備リースのあっせん事業を推進したことが報告された。



米国で鳥フル、家禽肉など輸入一時停止

農水省動物検疫所は19日、米国の家禽飼養施設において高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、ジョージア州ピアース郡から輸出され

る生きた家禽、家禽肉等の輸入を一時停止(4月21日付)したと発表した。

5月の食品価格動向調査 輸入牛は前月比4円安、国産牛は17円高

農水省大臣官房政策課食料安全保障室はこのほど、5月(11~13日)の「食品価格動向調査」(食肉・鶏卵)の調査結果を公表した。同調査は各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査を実施。価格は特売価格などを含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均となっている。

調査によると、国産牛肉(冷蔵ロース・100g)の全

国平均小売価格は847円で前月比17円高、輸入牛肉(冷蔵ロース・100g)は420円で4円安だった。豚肉(ロース・100g)は285円で2円高、鶏肉(モモ肉・100g)は154円で3円高となった。また、平年比では国産牛肉が2%高、輸入牛肉が24%高、豚肉が8%高、鶏肉が14%高となった。

大臣官房政策課食料安全保障室「食品価格動向調査(食肉・鶏卵)」による全国平均小売価格

(単位:円/100g、鶏卵は円/1パック)

調査期間	輸入牛肉 (冷蔵ロース)	国産牛肉 (冷蔵ロース)	豚肉 (ロース)	鶏肉 (モモ肉)	鶏卵 (サイズ混合・10個入)
令和8年5月 (5/11~5/13)	420	847	285	154	309
令和8年4月 (4/13~4/15)	424	830	283	151	308
令和8年3月 (3/9~3/11)	410	828	283	151	309
令和8年2月 (2/9~2/10)	412	824	284	153	308

注1:各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査。2:価格は特売価格等を含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均である。3:鶏卵は令和元年7月に「Lサイズ」から「サイズ混合」に調査規格を変更。

日本冷凍食品協会が通常総会、藤江会長ら再任、出荷量・額とも増加

一般社団法人日本冷凍食品協会は20日、東京都千代田区のパレスホテル東京で令和8年度通常総会を開催し、令和7年度事業報告および収支決算、監査報告、令和8年度事業計画など、上程議案を承認。続いて理事会が行われ、藤江太郎会長(写真=味の素社長)、藤井幸一副会長、出倉功一専務理事、川崎順司常務理事が再任された。寺本博之理事、久留米克志監事が退任し、新たに南良勉氏が理事に、足立克弘氏が監事に就いた。

令和7年の生産消費動向においては、冷凍食品生産量は157.4万t(前年比2.4%増)と前年を上回り、金額(工場出荷額)は8577億円(6.4%増)と前年に引き続き最高額を更新した。家庭用は調理の簡便化志向の高まりなどによる利用の増加や、価値観や働き方の多様化、個食化など生活スタイルの変化、タイ



パ志向の高まりなどにより、ワンプレート型商品や高付加価値商品が伸長。数量ベースでコロナ禍明け以降初めて増加に転じ、金額ベースで6年続けて増加となった。業務用は外食、中食、給食産業の調理現場での人手不足の深刻化なども反映し、数量、金額共に増加した。

藤江会長は「輸入冷凍食品も含めた国内消費量は302万9千tと初めて300万tの大台を超え、1人当たり年間消費量は約24・6kgと1・0kg増加するなど、冷凍食品市場は成長し、家庭用、業務用ともニーズが高まっている一方で、必ずしも適切な価格形成がなされているとは言い難い状況が続いている。また、生産現場での労働力の不足もみられる。冷凍食品工場が消費者らと手間を分かち合っていること、また、生産現場

での賃上げなど雇用条件の向上が、ひいては購買力の増加に結びついていることについて、消費者、生産者両者に向けて理解の醸成を図っていく」とあいさつで述べた。協会では令和7年度に施行した改定冷凍食品認定制度および新認定マークの周知、認定工場向けの品質管理や技術についての講習会などの実施に取り組んでいく他、消費者、業務用関係者向け講習会なども積極的に展開を図っていく。

京都食肉買参事業協同組合が総会を開催、大西理事長を再選

京都食肉買参事業協同組合(大西雷三理事長)は20日、京都市南区の京都市中央食肉市場セミナールームで第57回通常総会を開催した。議事では2026年度事業計画案など全議案を原案通り可決。任期満了による役員改選では大西理事長を再選した。

総会の冒頭、大西理事長は「われわれを取り巻く経営環境は非常に厳しく、最も危惧しているのは和牛の頭数が減少していること。特に子牛は減少の一途。このままでは商売を続けていくのは厳しい。この課題には業界全体で取り組むだけでなく、行政のサポートも必要だ」

「また、今年3月には長野県の生産者を訪問し牧場見学を行いながら、さまざまな意見交換を行い、絆を深めることができた。今後も和牛の価値を向上させ、多角化する消費者のニーズを迅速かつ正確に捉え、フィードバックすることが大切だ。引き続き事業を通じて持続可能な食肉産業の構築に努めたい」などとあいさつ。

続いて大西理事長を議長に進められた議事では、25年度事業報告、同財務諸表報告、26年度事業計画案、同収支予算案、任期満了による役員改選、その他について審議し、いずれも原案通り可決した。役員改選では大西理事長を再選した他、定款の追加を行い、理事長の任期を原則2期4年とすることが了承された。

26年度事業では、購買促進事業、合同獣魂法要開催、各種関連事業・会合への参加、枝肉カットの骨などの販売、京都肉祭への開催協力、京都食肉市場と



の会議・情報意見交換会、全国関連業界の連絡調整と情報収集などに取り組む。

来賓では近畿農政局生産部畜産課の飛瀬勲課長、京都府農林水産部畜産課の黒田洋二郎課長、京都市中央卸売市場第二市場の橋本悟場長、京都食肉市場(株)の坂井利行副社長がそれぞれの立場から祝辞。来賓紹介、祝電披露に続き、池田正治副理事長が閉会のあいさつを述べ、総会を終了した。

役員改選による新体制は次の通り。

役員改選による新体制は次の通り。
 理事長 大西雷三▷副理事長 吉岡浩人、池田正治▷専務理事 重国利一▷常務理事 三嶋太郎、井元康嗣、堀辰昭、森能則、笠置庄太郎、今村隆宏▷理事 前田斉、大西英毅、吉岡秀也、木崎裕太、安藤真宏▷監事 高見純、木永泰清



【関東の輸入豚肉現物相場】Cは全体的に上昇、F底堅い

【フローズン】引き続き欧州産を中心にベリーやカラーには品薄感が強く、玉なしの状況が継続している。量販店からの解凍品需要も底堅いものがある。これから梅雨にかけては不需要期で消費者の節約志向がさらに強まる時期であり、解凍スライス品の需要も高まりそうだ。

【チルド】ここへきて国産相場は急落しているが、今後は基本的に頭数が減少傾向となることが予想され、相場は高値の推移が予想される。そのため、国産からシフトするケースもみられるか。引き続きロインなどを中心に荷動きは堅調。一方、円安の影響も含め、全体的に価格は上昇傾向にある。

【輸入豚肉現物相場】(関東仲間冷蔵庫渡し)

キロ/円、税抜き

	輸入元	部位	相場	気配
フローズン	米国産	クッションミート	740中心	→
		テンダーロイン	840中心	→
	カナダ産	ショート・ボックス	790中心	→
		ウデ	790中心	→
		モモ	790中心	→
	デンマーク産	ベリー	玉なし	→
		カラー	玉なし	→
		ロインMM	880中心	→
		テンダーロイン	880中心	→
	フランス産	シートベリー	玉なし	→
カタロース		玉なし	→	
チルド	米国産	ロイン(FLON)	760中心	↗
		CCロイン	760中心	↗
		テンダーロイン	1,080中心	↗
		山付ベリー	1,260中心	↗
		バックス	820中心	↗
	カナダ産	テンダーロイン	1,100中心	↗
		ベリー	1,220中心	↗

【関東の国産豚肉現物相場】C、Fともにスソ物中心の荷動き

連休明け以降、行楽需要にも一服感が出るのが予想されていたものの、枝肉相場は予想を上回る急激な下落となっている。一時は上物価格900円近い価格を付けたものの、今週は600円を割り込みそうな水準まで下げている。出荷頭数は6万頭台半ばで推移しており、例年頭数が減っていくこの時期としては、それなりに出ている。とはいえ、気温も上昇する中、今後は頭数も減少傾向となることが予想される。一方、末端消費ではより安価なアイテムへの引き合いが強まる中、スソ物などは底堅い荷動きが続きそうだ。

フローズンも引き続きウデやモモの引き合いは強く、バラやカタロースもそれなりに動いている。一方、イベントや行楽需要に一服感がみられる中、スペアリブなどの荷動きは鈍化しそうだ。

関東の国産豚カット肉相場

円/キロ

生鮮物		冷凍物	
部位	相場	部位	相場
カタロース	1,150~1,250	カタロース	980~1,030
ウデ	820~850	ウデ	780~820
ロース	1,050~1,150	ロース	950~980
バラ	1,200~1,250	バラ	1,000~1,050
モモ	820~850	モモ	780~820
ヒレ	1,050~1,150	ヒレ	930~980

【肉類通関速報・4月】計29万7777tで前年比9・1%増

財務省がこのほど公表した3月の貿易統計速報によると、肉類の輸入通関量合計は29万7777t(前年同月比9・1%増)と前年同月を上回った。

米国からの肉類輸入量は6万1737t(13・9%増)と増加し、EUは2万6163t(5・9%減)となった。また、アジアからは6万5315t(1・6%増)と増加し、そのうち中国は2万2983t(15・2%増)、韓国は82t(6・

5%増)、ASEANは4万2219t(4・6%減)となった。

肉類通関速報 (単位: トン、%)

	数量	伸び率
米国	61,737	13.9
EU	26,163	-5.9
アジア	65,315	1.6
中国	22,983	15.2
大韓民国	82	6.5
ASEAN	42,219	-4.6
肉類計	297,777	9.1

【輸入牛現物相場】 チルドの引き合い鈍化、相場の一定下落もあるか

豪州産チルドは5月の下旬に差し掛かり、全体としての引き合いはやや弱まっている。来週には通関切れの商品が入荷してくる見通しで、各部位の在庫も潤沢となってくる。これまでは在庫量と引き合いで保たれていた相場が、在庫潤沢・引き合いの弱まりという環境要素で下落することも考えられる。一方で仕入コストは上昇傾向にあるため、一気に相場が崩れることはな

さそうだ。米国産はバラ系を中心とした引き合いで、こちらは仕入れも比較的抑えていることから在庫は適量で推移している。

フローズンはGW前から大きな変化はなく、豪州産、米国産共に引き合いは停滞傾向。仕入コストが高いため、在庫が増え過ぎないように買付量を抑えて相場を維持している。一方、豪州産は競合国である中国の買い気が強かったが、中国が豪州産牛肉に対してセーフガードを発動する可能性もあり、仮にSGが発動された場合、本来中国向けに出す予定だった牛肉が日本、韓国、米国、東南アジアへ流れる可能性がある。こうした環境によっては、バラ系を中心に一定の相場下落もありそうだ。

【輸入牛肉現物相場】

円/キログラム

		グラス	ショートグレイン
豪州産	トップサイド	1,650 ~ 1,800	1,700 ~ 1,850
	シックフランク	1,500 ~ 1,700	1,640 ~ 1,750
	アウトサイド	1,610 ~ 1,700	1,620 ~ 1,750
	ポイント	1,380 ~ 1,680	1,450 ~ 1,700
	ナーベル	1,200 ~ 1,250	1,250 ~ 1,400
	ランプ	1,650 ~ 1,920	1,900 ~ 2,100
	クロッド	1,350 ~ 1,400	1,550 ~ 1,800
	チャックロール	1,600 ~ 1,800	1,850 ~ 2,100
	チャックテンダー	1,450 ~ 1,650	1,550 ~ 1,850
	キューブロール	3,400 ~ 3,700	3,900 ~ 4,500
C	ストリップロイン	2,600 ~ 2,750	3,000 ~ 3,350
	テンダーロイン	4,200 ~ 4,750	5,200 ~ 5,500
豪州産	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,520 ~ 1,560	-
	ナーベル	1,050 ~ 1,280	-
	カウミート	1,150 ~ 1,320	-
F	トップサイド	1,400 ~ 1,450	-
	シックフランク	-	-

		チルド	フローズン
米	シールドクロッド	1,700 ~ 1,800	1,550 ~ 1,650
	ショートプレート	1,280 ~ 1,350	1,100 ~ 1,250
国	ボンレスショートトリブ(チョイス)	5,850 ~ 6,550	-
	チャックリブ(チョイス)	2,700 ~ 3,560	2,250 ~ 2,350
	ストリップロイン(チョイス)	4,300 ~ 4,800	-
	リブアイロール(リップオン)	5,200 ~ 5,500	-
産	テンダーロイン	5,700 ~ 6,000	-
	チャックアイロール(チョイス)	2,650 ~ 2,850	2,000 ~ 2,300
	同(プライム)	2,700 ~ 3,110	2,500中心

【ブロイラー市中現物相場】 輸入物、ブラジル産正肉がやや軟調

◇国産物 生鮮モモは引き続き高値。日経荷重の東京相場は840円前後で推移している。輸入物の高値や節約志向も背景に動きは良い。生鮮ムネは涼味商材としての需要期には入っておらず、やや動きは鈍いが、490円前後と例年との比較では高値で推移している。冷凍物はおおむねもちあい。

◇輸入物 輸入量が回復したことから、ブラジル産

モモ正肉がやや値を下げた。タイ産モモ正肉、ブラジル産カット物はおおむねもちあい。一大需要期のゴールデンウィーク以降、荷動きはやや鈍い。現地価格は高いが輸入量が回復したことで、カット物も先々は軟化するものと考えられる。

単位:円/キログラム

ブロイラー現物相場 単位:円/キログラム

国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	740~780
ムネ正肉(〃)	400~480
手羽モト(〃)	300~350
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	380~500

輸入物	
米国産モモ正肉(240gUP)	玉なし
米国産ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国産BIL	530~550
ブラジル産モモ正肉	680~700
ブラジル産モモ角切り	830~850
ブラジル産皮なしモモ正肉	780中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	450~470
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	750~780
タイ産モモ角切り(25~30g)	830~850
米国産モモ串	玉なし

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 5月21日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,565	2,723	-	-	-
		安値	2,476	2,380	-	-	-
		平均	2,812	2,530	2,344	-	-
		頭数	74	10	1	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,399	2,609	2,463	-	-
		安値	2,268	2,476	2,447	-	-
		平均	2,713	2,545	2,454	-	-
		頭数	141	28	3	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,853	1,826	1,804	-
		頭数	-	8	17	8	-
	雌 C	平均	-	-	1,769	-	-
		頭数	-	-	2	-	-
	去 B	平均	2,005	1,914	1,869	1,805	-
		頭数	2	15	8	6	-
去 C	平均	-	-	-	-	-	
頭数	-	-	-	-	-		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	345 426	1,030 817	- 201.5	(競り)	(相対)	
				-	14	60

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,482	2,043	1,897	1,794	-
	B	-	-	1,701	1,682	1,664
和 去	A	2,679	2,430	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,249	1,228
	C	-	-	-	-	1,210
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	1,959	1,847	1,797	1,768	-
	C	-	-	-	1,578	-
交 去	B	1,931	1,927	1,835	1,793	-
	C	-	1,744	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	685	917	826	756	639
	安値	677	616	594	475	130
	平均	682	671	650	644	489
	頭数	(5)	(340)	(265)	(81)	(126)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	508
	安値	-	-	-	-	508
	平均	-	-	-	508	508
頭数	(-)	(-)	(-)	(1)	(13)	

[大阪食肉卸売市場] 5月21日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [] は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,640	2,495	-	-	-
(頭数)	(21)	(4)	(1)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,695	2,478	-	-	-
(頭数)	(15)	(5)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	-	1,826	-	-
C	-	-	-	-	-
交雑去 B	-	-	1,893	-	-
C	-	-	-	1,771	-
豚	-	636	585	498	484

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	5月21日	5月20日	(5月累計)
豚	64,500	60,400	830,800
成牛計	3,820	4,480	51,080
和牛雌	960	1,070	12,880
和牛去勢	890	1,220	13,890
乳牛雌	680	670	6,970
乳牛去勢	510	490	5,670
交雑雌	400	480	5,820
交雑去	380	550	5,850

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 5月21日

東京	1,807 円	(前日 1,833 円)
大阪	1,879 円	(前日 1,726 円)

[豚・全農建値] 5月21日

上	中	取引頭数	市況
648 円	635 円	1,264 頭	急伸

と畜 売買	牛 78 頭 牛 61 頭	豚 42 頭 豚 112 頭	牛概況 豚概況	もちあい 強含み
----------	------------------	-------------------	------------	-------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 5月21日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	702 (724)	- (-)	5,963	-	下落
仙台 [中]	584 (572)	494 (508)	388	82	小高い
栃木 [地]	598 (596)	571 (549)	1,413	87	もちあい
茨城 [地]	635 (622)	608 (598)	1,113	559	反発
群馬 [地]	656 (603)	540 (504)	2,058	170	急続伸
さいたま [中]	649 (602)	645 (592)	218	219	急続伸
東京 [中]	671 (634)	650 (585)	1,030	817	急伸
横浜 [中]	624 (613)	610 (584)	673	667	上伸
山梨 [地]	664 (-)	625 (552)	156	149	品薄高
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	669 (669)	659 (657)	707	265	もちあい
京都 [中]	743 (-)	708 (-)	67	94	もちあい
大阪 [中]	636 (630)	585 (596)	42	112	強含み
神戸 [中]	717 (-)	711 (-)	47	125	-
岡山 [地]	710 (724)	699 (713)	212	298	弱気配
広島 [中]	- (663)	- (639)	293	-	-
福岡 [中]	675 (690)	643 (658)	503	107	続落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 5月14日～5月20日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,670,498 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,243	1,373	1,419	1,363	72,657
うで	853	885	976	896	136,192
ロース	1,214	1,305	1,409	1,313	166,516
ばら	1,372	1,437	1,490	1,432	136,250
もも	828	914	956	907	183,185
ヒレ	1,210	1,328	1,377	1,325	13,875
セット	1,091	1,125	1,203	1,124	961,823

◇近畿圏 総重量 681,749 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,339	1,512	1,543	1,487	56,307
うで	826	864	901	870	107,383
ロース	1,223	1,314	1,391	1,318	91,119
ばら	1,364	1,455	1,510	1,441	112,223
もも	861	886	918	881	150,927
ヒレ	1,259	1,392	1,502	1,379	10,233
セット	1,015	1,175	1,266	1,153	153,557

[食鳥正肉日経相場] 5月20日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	784	843	1,050	4
ムネ	442	504	610	2

[農水省統計情報部食鳥市況] 5月19日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	1,031	706	550	600	650
安値	770	459	290	360	350
平均	848	495	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510
TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928
TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡 晃 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します